

コギク 9月彼岸出荷作型では露地電照を行うと 需要期に安定して出荷できる

近年、コギク露地栽培では温暖化や気象の年次変動の拡大により開花が不安定になり、盆や彼岸の需要期に出荷できない事例が増えています。9月咲きコギク品種で露地電照栽培を行うと、自然開花期が彼岸前の品種は彼岸需要期に出荷できるようになります。加えて、露地電照栽培を行うと開花の年次変動が小さくなり、彼岸需要期に安定して開花させることができます。

● 電照で彼岸出荷が可能に ●

9月咲きコギク品種では6月中旬から7月下旬まで暗期中断4時間の露地電照を行うと、自然開花期が彼岸前の品種ではより彼岸近くに開花させることができます(図1)。

また、これらの品種では、品種ごとの開花の早晩や地域の気象条件に応じて電照の消灯日を調整すれば、彼岸需要期出荷が可能になります。

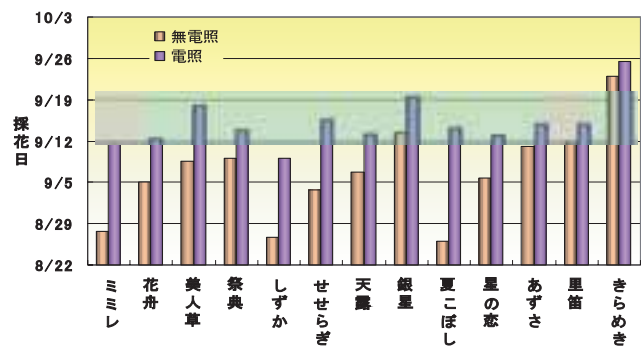


図1 電照による開花日への影響

電照期間は6/15～7/26、暗期中断4時間(22:00～2:00)、10㎡当たり電球1コを設置。青部分は需要期。

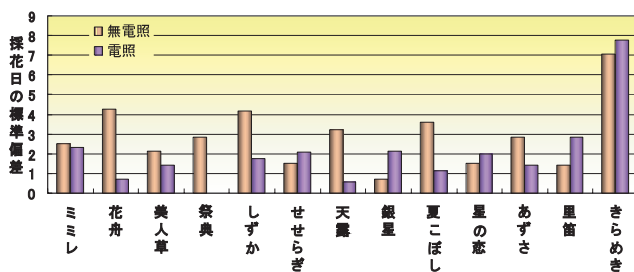


図2 電照による採花日安定の効果

● 切り花品質への影響 ●

電照を行うと切り花長が長くなります(図3)。ただし、ミミレのように切り花長が長くなりすぎる品種は、定植を遅らせるなど草丈を調節する対策が必要です。

コギクの品質に草姿(花の付き方)があります。電照を行うと草姿が改善される品種もあれば、やや悪くなる品種もあります。しかし、草姿が悪くなくても商品性に問題が生じるほどではありません。

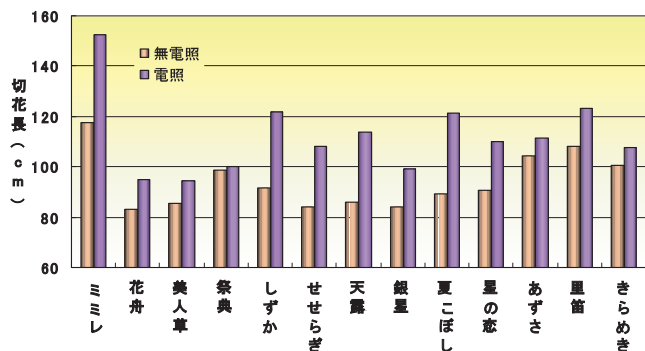


図3 電照による切り花長への影響